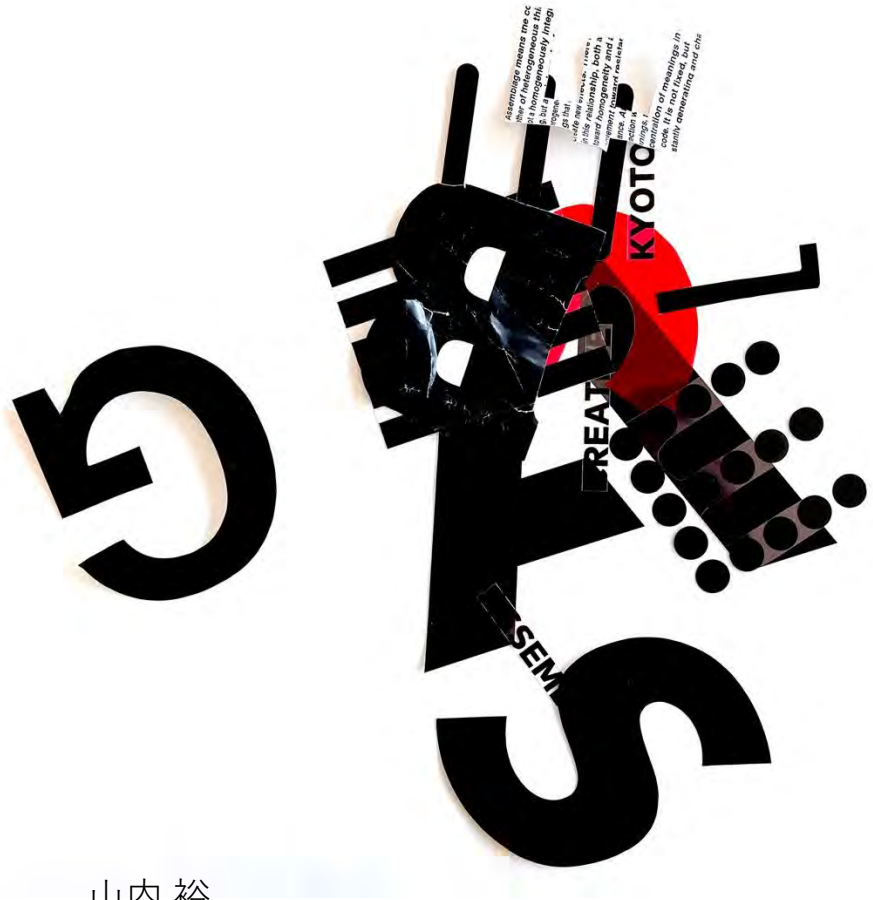
KYOTO CREATIVE ASSEMBLAGE

イノベーション＝アート



山内 裕

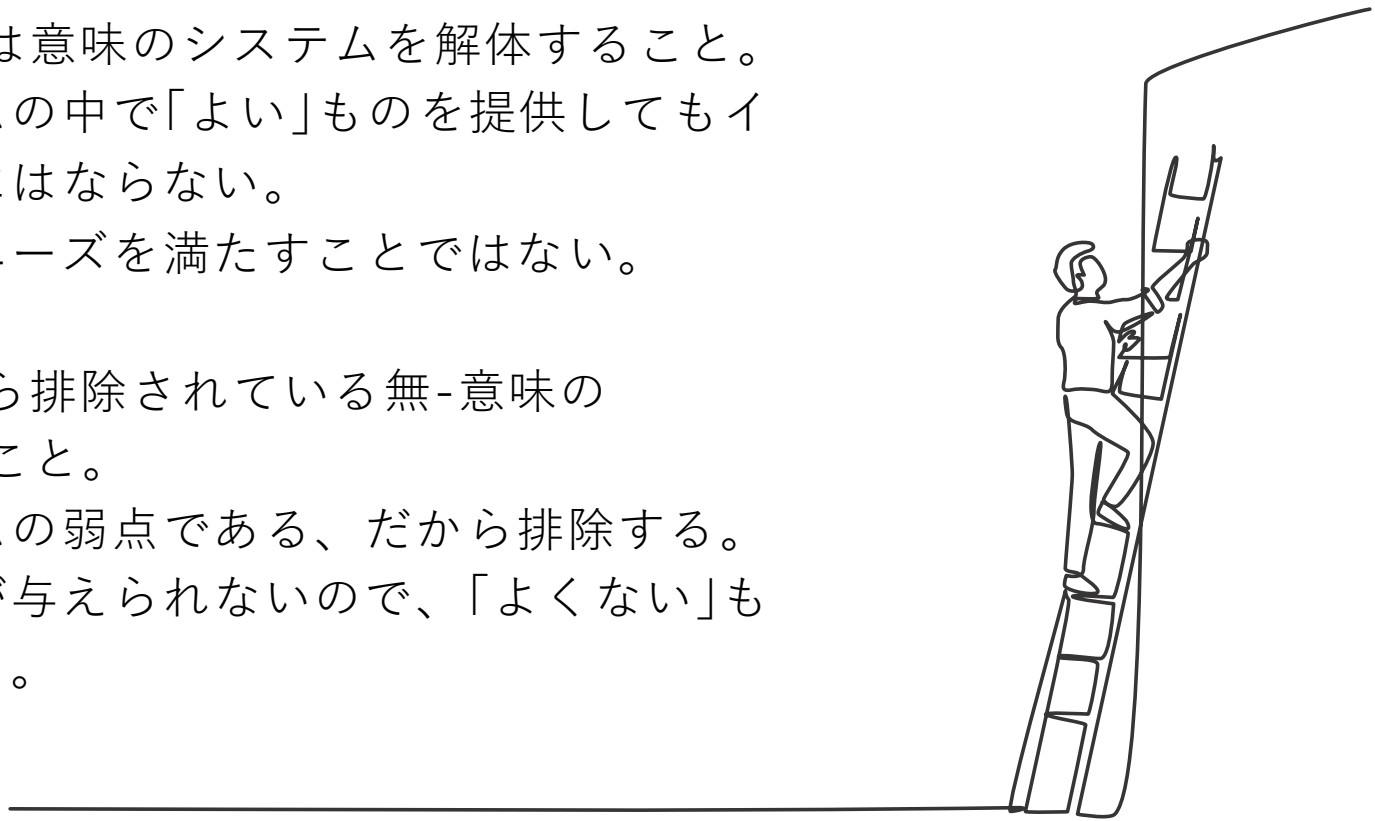
もっとも重要なこと

イノベーションとは意味のシステムを解体すること。

- 意味のシステムの中で「よい」ものを提供してもイノベーションにはならない。
- 消費者の潜在ニーズを満たすことではない。

意味のシステムから排除されている無-意味の「敗者」を救済すること。

- 敗者はシステムの弱点である、だから排除する。
- 敗者は、意味が与えられないので、「よくない」ものとされている。

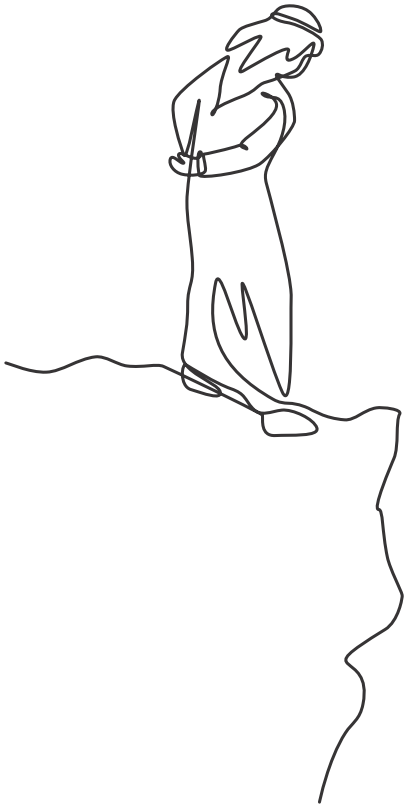


なぜイノベーションになるのか?

人々の自己表現となるとき社会が熱狂する。
- 人々の抱える敗者が救済される。
- 表現自体の敗者も救済される。

意味が規定されていることに人々は熱狂しない。
- 既存の意味のシステムの外側の深淵を除いてみたいという純粋な欲望(=享楽)を捉える。

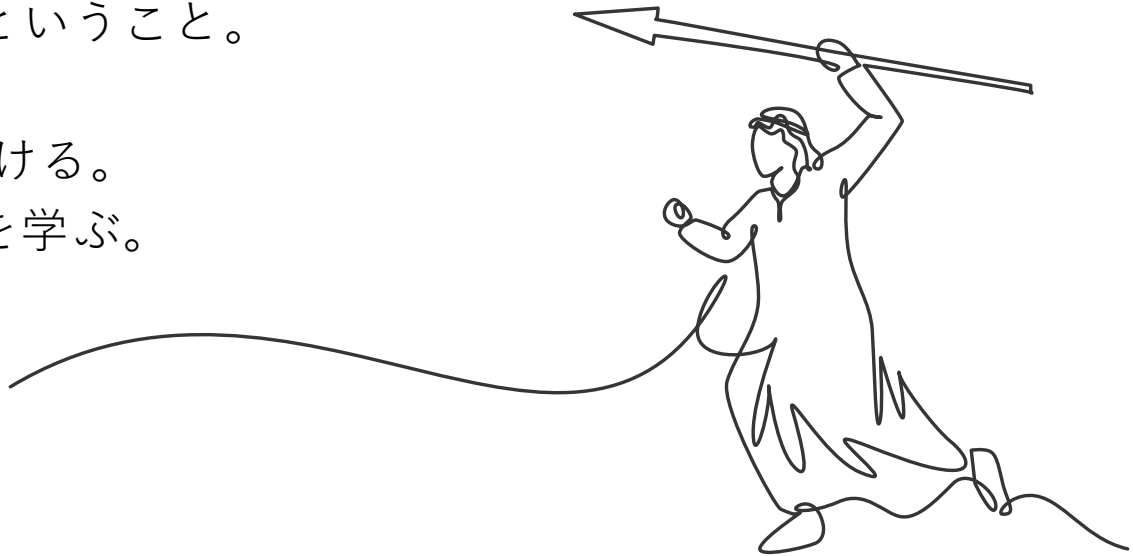
イノベーションには、システムに収まり切らない過剰(excess)がなければならない。



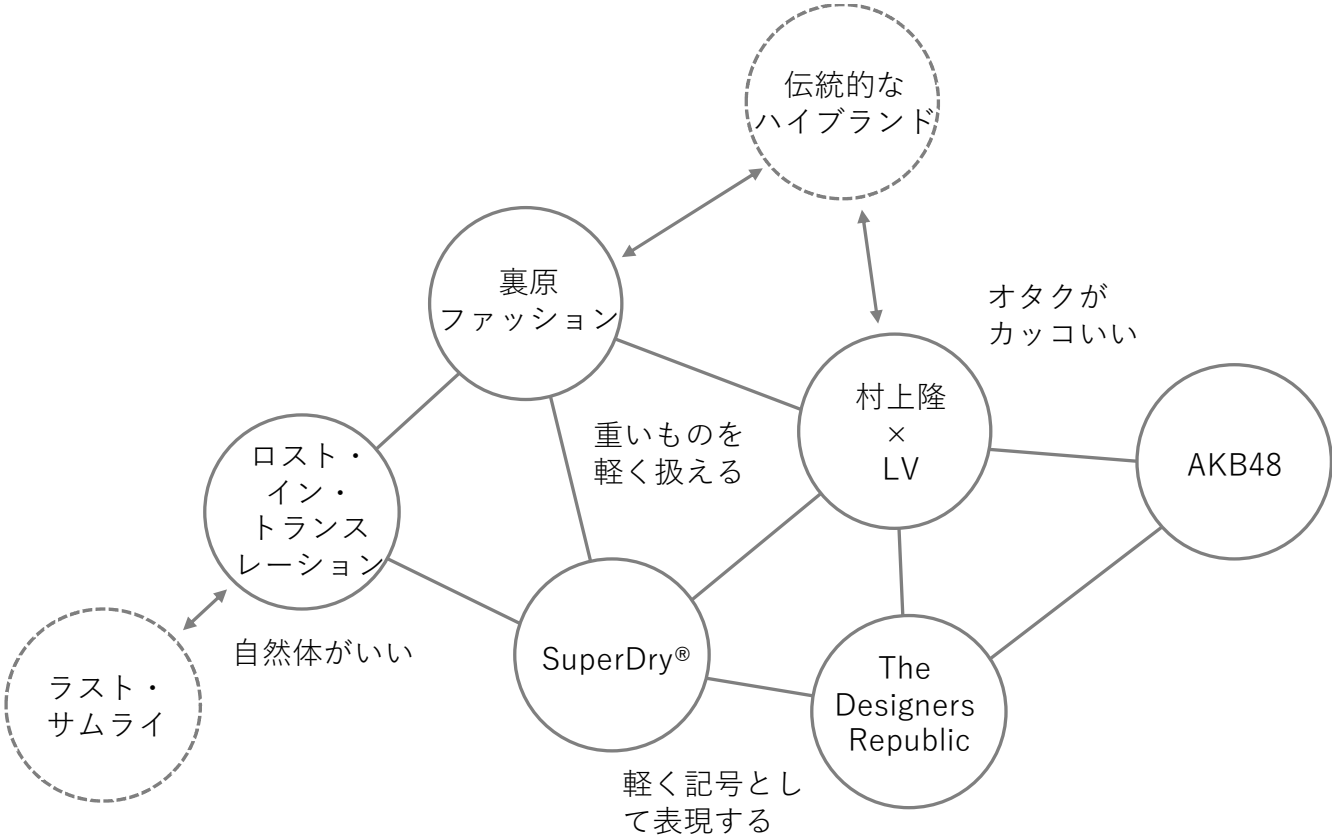
そのために

意味のシステムをよく見る。
- 意味のシステムのいかがわしさを読み解けるか?
- 敗者を抑圧し見えなくするといういかがわしさ。
- 意味のシステムを取っ払うということは、ワケわからないことに向かうということ。

人文社会学的な思考を身に付ける。
- 人文社会学の概念や方法を学ぶ。
- 無-意味を理解する感度を高める。



イデオロギーの星座 – 無-意味を感じ取る



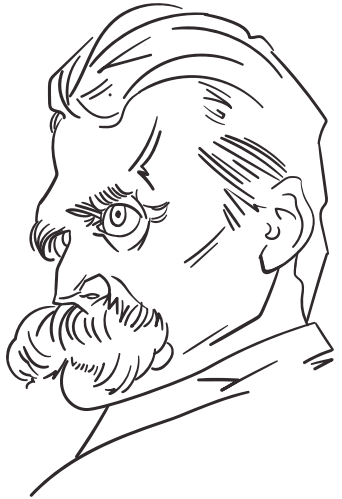
transvaluation

価値転換 – 無-意味を肯定する

何かに価値があるというとき、価値基準がある。
- 価値を示すために、価値基準が構築される。

イノベーションは価値基準の転換である。
- 既存の価値基準の上での価値の増加ではない。

「...なのによい」から「...だからよい」へ。
- 新しい価値基準を提案することで、それ自体で本来からよいものであることを示す。



Friedrich Niezsche

アート＝イノベーション

アートも意味のシステムを解体する。

- アートは意味の連関を切断し、今まで抑圧され感じ取れなかったものが感じられるようにする。

アートは、意味のシステムに収まり切らない過剰を表現する。

- 意味のはっきりしたキレイなものを表現するのではない。

ビジネスがやるべきことは、イノベーション＝アートである。

Immanuel Kant

イノベーションとは社会批判である。

意味のシステムを解体するという社会批判。
- そして、この解体(社会批判)を人々が享楽する。
- この享楽は自分の欲望をあきらめない純粋に倫理的なものとなりうる。

ビジネスは、「よいもの」を提供して利益を上げることではない。
- 意味のシステムを解体すること、そしてこれが人々を熱狂させ、歴史を作っていくこと。

京都クリエイティブ・アッサンブラージュ

3ヶ月で、イノベーション=アートの方法を学ぶ。
- 「無-意味」を、感じ取り、救済し、表現する。

次の3ヶ月で存在論的デザインを学ぶ。
- 存在論的デザインとは、外部からの視点を排除し、現実の不可能性(=敗者)に向き合うデザイン。

平行してアート演習を体験する。
- 意味の連関を切断し、無-意味をそのまま表現する姿勢を身に付ける。